

# 六甲カトリック教会 教会報

12

No. 636



## 「アルペ神父って？」

助任司祭 渡辺徹郎, s. j.



六甲教会では11月30日から12月8日にかけて、ペドロ・アルペ神父（1907-1991年）のパネル展示を行います。

「ペドロ・アルペ??」という多くの方々のリアクションが目につかびます。それもそのはず、彼はイエズス会宣教師として日本で活動したものの、山口・広島で宣教した後、六甲教会をきれいに通り越して東京に異動となったので、六甲教会の方々とはなじみがないからです。彼はその後イエズス会第28代総長に選出され、第二バチカン公会議後の変わりゆく教会にお

いて、世界最大の男子修道会であるイエズス会のかじ取りを任せられました。優れたリーダーとしてだけでなく、聖なる人であったことでも知られ、現在カトリック教会は彼を「福者」（教会が公に聖性を認めた者に対する敬称であり、最高位の敬称である「聖人」の一段階前）として認定するための調査をしています。

アルペ神父は同じスペインのバスク地方出身であるフランシスコ・ザビエルに憧れ、司祭叙階後の1938年に日本に宣教師としてやってきました。日本語を2年間学んだ後、山口の教会で2年間働き、その後広島へ移動し、修練者（修道者の初期の養成段階）の養成を12年間担当しました。原子爆弾が広島に投下されたとき、アルペ神父は修練院を野戦病院として開放し、被爆者の治療を行いました（彼は医者でもありました）。その後、東京で日本管区長を約10年務めた後、1965年にイエズス会第28代総長として選出され、ローマで1983年までその職務を果たし、1991年に帰天しました。

教会がある人を聖人として認めるのは、その人に対するトロフィーのためではなく、残された私たちのためです。「生きた福音」である聖人の生き方を学ぶことで、私たちも神の助けのもとに聖なる人となるように招かれています。

アルペ神父を直接知っているイエズス会員の話によると、彼は思いやりにあふれ、ユーモアを大切にし、微笑みを絶やさなかったそうです。リーダーとしては対話を大切にし、目下の人々をいつも徹底的に信頼していたそうです。また、イエズス会総長として特筆すべきは、社会正義の促進を大切にしたことです。彼は信仰が個人のこころの問題に留まらず、社会的次元をもつことを示してくれました。

アルペ神父を通して聖性を学んでみませんか？興味のある方はぜひパネル展へどうぞ！

・写真は聖堂で祈るアルペ神父



ペドロ・アルペ神父パネル展

日程：11月30日（土）～12月8日（日）

場所：六甲教会イグナチオホール

教皇12月の祈りの意向は、「希望の巡礼者」です。次のように祈りましょう。  
「希望の巡礼者」聖年が、私たちの信仰を強め、復活のキリストを生活のただ中に見出す助けとなり、私たちキリスト者を希望に満ちた巡礼者に変える力となりますように。

## 2024年度 第4回小教区評議会議事録（要約）

日時：2024年11月17日（日）11：30～13：30 第1、第2会議室

出席者：英隆一朗主任司祭、渡辺徹郎助任司祭、堤 福生（議長）、松井理直・荏原いずみ（副議長）、岩谷美禰子・中村節子（書記）、松平麻也（宣教・養成部）、中西裕樹（典礼部）、宗行孝之介（財務部）、井川直哉（地区会）、井川伸子（社会活動部）、大上尚子（広報部）、本下 稔（施設管理部）、蛭田 武（三日月会）、藤井敦子（婦人会）、西川 葉（教会事務室）以上17名

### 1. 英主任司祭の挨拶とお話

- ・本年度の活動方針は「身の丈にあった教会」だが、この秋は活動が多く活発で、バザーも「ミニバザー」と名付けるまでもないほどの活動ができた。
- ・渡辺神父が主催している「お茶っこサロン」など、小さな集まりも成果を上げている。
- ・2025年は聖年（ジュビリーイヤー）になるので、当教会も活動していく。テーマは「希望の巡礼者」。「希望」がキーワードなのでその意識をもって活動したい。バチカンの聖ペトロ大聖堂で12月24日に聖年の開始を告げるミサがあり、12月29日には玉造教会（大阪高松教区の司教座聖堂）でも聖年開始のミサとコンサートがある。

### 2. 報告事項

- (1)三日月会例会（9月16日）：敬老の日で約60人参加。  
11月は例会、13日（水）は高木良子シスターによるアフリカ・コンゴでの活動のお話。
- (2)社会活動学習会（9月22日）：山内保憲神父の講演「看るとき、看とられる時—介護の現場の体験より—」約160人参加。
- (3)「祈りと音楽の集い」（9月22日）：約150人参加。
- (4)秋の黙想会（10月5日）：「聖イグナチオの霊操の基本を学ぶ」4回目。約50人参加。  
同じテーマであと2回継続する。
- (5)典礼奉仕者の集い（10月6日）：参加者50人余。
- (6)秋の遠足（10月19日）：他教会からの参加者もあり、36人参加。徳島教会など訪問。
- (7)防災セミナー（10月27日）：壮年会小田琢也さんによる灘区の防災施設のお話と「土砂災害バーチャルリアリティ」、地震体験車「ゆれるん」の体験など。来年度も小田さんに再講演をお願いしたい。
- (8)教会学校練成会（10月26～27日）：シノドスの集いの内容にも合わせて「人を幸せにすること」をテーマに話し合いを行った。バザーを頑張ろうという、子どもたちの積極的な意見も出た。
- (9)チャリティーバザー(11月10日)：個人出店（23件）とワークショップ形式(4件)で、盛況であった。各ボランティア団体の総収益は546,471円、個人出店の教会への献金は340,849円であった。個人出店の教会献金の340,849円の用途は協議事項（1）に記載。軽食が早く売り切れたので、来年は軽食のメニューを増やしたほうがよいと思われる。
- (10)施設管理部:小聖堂とイグナチオホールの雨漏り対策と改修を年内に。聖堂の排煙窓を改修工事中。11月18日に終了予定。

#### (11) その他

- ・ハラスメント防止対策委員会：六甲教会のハラスメント規定について諸法律、教会法など法的な裏付けを行いながら改訂中。委員会は、弁護士を含むメンバーが確定している。今後ハラスメント研修会の実施を予定。次回の委員会は12月1日に開催予定。
- ・80周年事業プロジェクトチーム：10月17日にチーム会議。記念誌のための座談会開催、50周年記念誌のデジタル化、80周年記念誌のコンテンツを募集する。データ提出の要領は教会報11月号に告知している。次回会議は12月19日開催予定。
- ・篠原北町1丁目自治会主催の防災イベントが10月19日にイグナチオホールで行われた。近隣住民など70人ほどの参加があった。充実した内容であった。

### **3. 協議事項**

- (1)個人出店の教会への献金340,849円は能登の災害支援に、カリタスジャパンを通じて行う。また英主任司祭の提案で、当教会「愛の献金」から、社会活動神戸センターへ10万円、こどもの里へ10万円、シナピス大阪へ10万円、船員司牧に5万円、社会福祉法人木の芽福祉会（ひらめの家）へ3万円の支援を行う。
- (2)2025年度活動計画と予算  
11月10日に財務委員会。2024年度の財務状況は、収入は例年並み、支出は3%ほどの増である。施設に関する支出は今後かなりの予算が必要と思われる。  
次年度の予算申請は、今年度の実績を各部コーディネーターに通知するので11月末までに提出のこと。

### **4. 行事予定**

- (1)アルペ神父企画展：企画展「人間 アルペ神父に問う Men For Others 展」を開催  
11月30日（土）午後からイグナチオホール。12月8日（日）まで。
- (2)クリスマスの飾り付けと片付け  
飾り付け11月24日の10時ミサ後、片付け1月11日（土）13時。  
協力を呼びかけ。
- (3)教会大掃除  
11月30日（土）9時から。排水溝なども。予備日は12月7日（土）
- (4)クリスマス音楽の集い  
12月22日（日）14時開演。
- (5)主の降誕ミサ：12月24日（火）17時、19時、21時  
25日（水）7時、10時（洗礼式あり）
- (6)神の母聖マリアミサ：12月31日（火）、1月1日（水）例年通り。
- (7)小教区評議会：1月5日
- (8)新成人祝福式、教会新年会：1月12日（日）
- (9)阪神淡路大震災30年追悼ミサ  
1月17日（金）10時から神戸中央教会にて神戸地区合同のミサが行われる。この合同ミサをもって六甲教会が継続して行ってきた10時の追悼ミサを終了する。
- (10)12月24日、教会学校がJR六甲道駅前でクリスマスソングのキャロリングを行う。

### **5. その他**

- (1)2025年度行事予定表作成のため、スケジュール臨時調整会を2025年2月1日に行う。
- (2)2025年度堅信式：復活祭などの教会暦、学校の試験時期、司教様の予定などを勘案して決める。

- (3) シナピス神戸が、野宿者生活困窮者のための毛布、寝袋の寄付を募っている。12月1、8、15日に聖堂入口に段ボール箱を置き寄付を呼び掛ける。
- (4) 聖体礼拝の広報：渡辺神父が第2・第4木曜日19時から19時40分まで聖体礼拝を行っているので、その広報を行う。

## 次回 第5回小教区評議会 2025年1月5日(日)11時30分～ 第1、2会議室

### 《 秋の墓参 》

11月3日(日)、大雨警報が発令されていた前日とは打って変わって、秋晴れの穏やかな天候の下、「秋の墓参」が行われました。

今年の「秋の墓参」も、「死者のためのミサ」として10:00のミサに続いて、12:00より長峰霊園に於いて、①共同墓地での「納骨式&墓参の祈りの会」、②「個人墓地の祝福」という2部構成で実施されました。今回は、納骨されたご遺骨が26柱、参列して下さったご家族が18家族と非常に多かったため、共同墓地前の限られたスペースでの式の実施に支障が出ないかと懸念されたのですが、皆様方のご協力のおかげでスムーズに進行することができ、滞りなく終えることができました。

また、続いて行われた「個人墓地の祝福」では、「墓参」に今回初めて参加された渡辺神父様が最下段のI地区から、英神父様が共同墓地のある最上段のC地区から順に、参列者のおられる墓地の前では一緒にお祈りを唱え、聖水をかけて祝福し、他のすべての墓地にもまわって、同様に聖水で祝福して下さいました。次回の「春の墓参」は、3月30日(日)に実施致します。

墓地委員会 コーディネーター 鍵山 浩三

### 《 三日月会 11月度例会 》 シスター高木良子<sup>ながこ</sup>さんのお話を聴く

11月13日(水)イグナチオホールで、38名の会員が、半月状に座り、渡辺神父様の司式でミサが始まりました。神父様は「毎日、笑顔で人と接し、寝る前には神様に感謝の祈りを捧げることができると、心が豊かになります。」と言われました。

ミサのあと、シスター高木良子さん(シスター高木慶子さんの姪で、マリアの宣教者フランシスコ修道会神戸所属=写真)のコンゴ共和国での31年間の宣教活動のお話を聴きました。



彼女は1980年終生誓願をうけ1982年にフランス領コンゴに着任。14か国の人達と活動・1960年に独立したコンゴは部族同士で内戦を繰り返す、治安は不安定。その中で、教育活動、宣教活動をされたのです。1989年(ベルリンの壁崩壊の年)にコンゴ共和国になり、民主主義が動き出し、8割がキリスト教徒、自分達で幼稚園から高校まで、大学は専門学校を作って、発展しているーなどのお話でした。

彼女は苦勞された出来事の数々をさらりと話されましたが、永年に亘る数々の彼女の業績を聴くにつれ、偉大なシスターだなという印象を受けました。(折川節夫)

※コンゴは、中部アフリカにあり、コンゴ共和国とコンゴ民主共和国に分かれている。(蛭田 武 註)

## 《 藤棚下の整備 》



この度、「藤棚下の整備事業」が一段落しましたので概要を報告いたします。藤棚下の空間は、信徒や近隣の皆さんの憩いと交流の場として親しまれて来ましたが、地面が不陸（ふろく；でこぼこのあること）の多い自然の土であったために机や椅子の座りが悪く、土埃も気になる快適とは言い難い環境でした。

この整備事業は英神父様の発案のもと、施設管理部で調査や設計、見積聴取と工事管理等の一連の作業を経て完成しま

した。居心地の良い空間の構築を目指し、土の地面を平坦なタイル張りに替え、整地面への斜路を設置して車椅子等での使用を容易にし、整備面と周辺地盤の高低差が大きい箇所には落下防止の手摺を設置しました。この度の整備により、藤棚の下は、春には信徒をはじめ、通行人や地域の方々が足を止め、桜や春の花々を愛でながら歓談し、夏には散策中の方が一時の涼と休息を求めて立ち寄り、秋には親しい人々が紅葉の観賞とお喋りのために集う空間になることが想像されます。



今年の春には聖堂前の池は芝生広場に替わりました。園芸係の方々の猛暑中の芝刈や灌水、花の手入などの奉仕により、芝生は見事に生育し芝生広場周辺はもとより、全ての花壇には年中綺麗な花が楽しめ、藤棚下の空間と併せて、清潔で快適な環境の整備が進みました。一方、屋内ではオープンスペースの提供や図書室の一般開放、ならびに地域自治体のロビーの使用などが見られます。これらの全てが相互に作用し合って、開かれた教会として信徒は勿論のこと多くの方々が集い交流する空間になることを期待しています。

藤棚下の床整備は完成しましたが、現時点では未だ机と椅子は更新されていません。今後、当空間の利用目的や利用方法について皆さんと相談しながら整えて行く予定です。その他、施設の整備や改善や改良についても、ご意見をお寄せ下さいますようお願い致します。

写真は新しく整備された藤棚下(上)と小聖堂前芝生広場(下)

(施設管理部)

## 《 七五三、9人が祝福 (11月17日) 》



年間第33主日、10時ミサ中に七五三祝福式が行われました。この日は“子どもとともにささげるミサ”の日でもありました。今年の七五三では、7歳4人（男児2名、女児2名）、5歳2人（女児2名）、3歳（男児1名、女児2名）の合計9名が祝福されました。子どもたちは聖水を受け、順番におメダイを首にかけていただき、祝福式の最後には千歳飴を手渡されました。お説教では毎年、

子どもにもわかりやすいお説教をしてくださる英神父は、「ハウルの動く城」（宮崎駿監督）のお話をされました。魔法使いハウルに偶然助けられた少女ソフィーはその後、魔女の呪いで老婆に姿を変えられ魔法の世界の住人となります。そして、過去と未来や地上と城とを巡ることになりますが、ソフィーの活躍でほかの住人も含め、その呪いは解け、ソフィー自身も元の姿に戻るといってお話です。ソフィーの持つ愛、ハウルへの愛がこの物語のテーマだとした英神父様。私たちにとって神の愛は永遠で、神の愛をもって歩んでいけば困難を乗り越えられると話され、愛が子どもたちや社会の貧しい人たちの上に注がれますように、と締めくくられました。

## ◀ 「死者の日」ミニコンサート ▶

11月2日(土)ミニコンサートが開かれました。この日は「死者の日」で、10時ミサのあと、「死者の日によせて」と題してコラールとそれを使用したオルガン曲が演奏されました。オルガンが佐藤雅孝さん、コラール独唱が西川葉さん(いずれも当教会音楽奉仕者・写真)です。20分ほどの短い時間でしたが、すずやかな声のコラールとそれを受けて変奏を繰り返すオルガンの響きに、会衆は耳を傾けました。



以下は当日のオルガン・佐藤さんのコメントです。

11月2日のミニコンサートでオルガンを担当しました。

夏にしっかりと時間を取って行おうと思っていた練習が思うように進まず、コンサートまで2ヶ月となった9月頃より練習時間を大幅に増やして準備を行いました。選曲にあたり、死者の日にあふさわしい曲の中から選びました。

「天におられる私たちの父よ」は、私が普段ミサ前の前奏で弾くことが多い曲です。いつも聞いているあの曲と想像していただけた方ではないかと思えます。「我ら苦しみの極みにある時」は、生きていく上で避けることの出来ない苦しみやつらさに直面したときに深く味わうことの出来る曲です。「苦しみ悩みの」という曲名でミサでも歌われています。私も自分自身の体験と重ね合わせながら何度も練習し、本番に備えました。「神のみわざこそことごと善けれ」はコラールとその変奏曲を演奏しました。「苦しみ悩みの」と同様、素直で美しい旋律、臨時記号を多用して、もどかしさすら感じる旋律、明るく開放感のある旋律に至るまで変化に富んだ変奏を楽しむことが出来ます。

コンサートの演奏はyoutubeのカトリック音楽チームのチャンネルで視聴することが可能です。コンサート当日にいらっしゃらなかった方もお聴きになり、祈りの一助となれば幸いです。(佐藤雅孝)

## ●12月のコンサート●



12月は音楽会の集中する月です。メサイヤ、第九、そしてクリスマスコンサートなど。六甲教会では22日(日)に「クリスマス音楽の集い」を、25日(木)には「ミニコンサート」を開きます。「クリスマス音楽の集い」は定例の「祈りと音楽の集い」のクリスマス版、ミニコンサートは「主の降誕によせて」というタイトルで、熊澤加代さんのオルガン演奏と声楽アンサンブル『チェルレウムマーレ』のクリスマスキャロル集です。多数の御来場をお待ちしています。(典礼部音楽チーム)

ミニコンサート  
～主の降誕によせて～

**12月25日(木)**

10時00分ミサ終了後、11時00分開始  
本堂に於いて、ミサに続いて行われる20分間のミニコンサートです。  
ご来場をお待ちいたします。

六甲カトリック教会オルガン奉仕者 **熊澤 加代**  
I.C.ダカン ノエル10巻 グランジュとジュエ

声楽アンサンブル **チェルレウム・マーレ**  
本日、キリストが生まれた、天使がその喜びを語り、  
そして何人か、その人を知る、ひいては聖霊の、おられるよ

主催 六甲カトリック教会音楽チーム

六甲カトリック教会  
**クリスマス音楽の集い**

2024 **12/22** (日) 午後2時開演  
(午後1時30分開始)

場 所：六甲カトリック教会主聖堂 入場無料

本堂に於いて、ミサに続いて行われる20分間のミニコンサートです。ご来場をお待ちいたします。

★ Program ★  
オラトリオ「メサイヤ」 RV 581より  
J.S.バハ  
「我ら苦しみの極みにある時」 BWV 755  
「苦しみ悩みの」 BWV 578  
無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ第3番  
モーツァルト  
クリスマス賛歌集(イ長調) K.622より  
ベガ  
「神のみわざこそことごと善けれ」  
「苦しみ悩みの」  
「我ら苦しみの極みにある時」  
「苦しみ悩みの」  
六甲カトリック教会音楽チーム

★ 出演 ★  
オルガン：熊澤加代  
声楽：熊澤加代、西川葉、山本真  
声楽：熊澤加代  
オムニバス：美田仁美、熊澤加代、  
熊澤加代、西川葉、  
熊澤加代、西川葉  
六甲カトリック教会音楽チーム

主催：六甲カトリック教会音楽チーム  
お問い合わせ先：六甲カトリック教会音楽チーム  
TEL: 078-922-1111 FAX: 078-922-1111  
E-mail: 6kath@kath.or.jp

## 社会活動部 今月の予定

- 12月 4日(水) 10時 手芸の集い 第1、第2会議室
- 12月 14日(土) 10時半 炊き出し 小野浜グラウンド(中央区小野浜町3)車で一緒に行かれる方は六甲教会に10時集合。その旨事務所に事前に連絡して下さい。
- 12月 16日(月) 9時半 ともしび会 教会台所(児童養護施設の子どもたちへのケーキ作り)ケーキ作りに興味ある方はぜひご参加下さい。申込不要です。
- 12月 25日(水) 13時 ともしび会 16日に焼いたスポンジにデコレーションします。

## みんなの広場

### 病がどこから来るのか、人は誰も知らない

昨年5月、突然腰の痛みのため寝返りが打てなくなりました。歩行もままならず、鍼やマッサージでも改善しません。

椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症と診断され、ボルトで固定する手術しかない、と言われました。まだ先は何十年もある（と信じている）私は「ボルトを入れる時期は今ではない！」と、8月末に最先端医療と思しき自由診療・施術を受けました。

良くなった、と思ったのも束の間、体は固くなるは痛みが残るは。しかしリハビリのおかげで体は伸び、軽くなりました。ならばもう少し、と励んだ結果、今年の5月になって足に激痛が走り、また歩けなくなったのです。〈リハビリに精を出しすぎたためか〉ヘルニアがかなり出てきてそれが神経にあたっていたようです。医院から処方された痛み止めは全く効かなかったのですが、2週間程してスッと痛みがなくなりました。喜び溢れ、感謝の祈りを捧げようと久しぶりに教会に向かいました。ところが、強い鎮痛剤の副作用でフラフラになっているのに気づかず、家を出たとたん転倒し、顎の下を裂傷、さらに口腔内を骨折しました。手術のできない箇所のため、通院による治療と言われました。

ヘルニアの痛みで歩けないのに通院！で、私は別の病院に望みをかけました。待つこと1週間、幸いそこは入院を受け入れてくれたのです。

口にはギブスをはめられゴムで固定。隙間から溶かした薬や流動食をチューチューする毎日でした。が、隣にいる入院患者はもっと壮絶であるにも拘わらず、とても明るい方だったのが、私に励みを与えてくれました。

退院後一カ月は口のゴムの交換は毎日続けました。夫の協力、妹やヘルパーさん、近くの歯科医院にもお世話になりました。教会の友人も見舞ってくれました。神父様ももちろんお祈りくださいました。感謝でいっぱいです。

で、今年の8月、口腔外科と同じ神大病院の整形外科の医師から手術の日程を告げられ準備を進めていました〈この頃はもう手術をする覚悟をしていました〉。ただ、同じ医師から「ブロック注射が効けばええねんけどな」と2度ほど聞かされたのが心に残り、何度か通ったことのあるクリニックで受けた神経根ブロック注射が劇的に効果を発揮！嘘のように痛みがなくなりました。今は入院の必要なし、と言われ、ヘルニアもかなりひっこみました。

喉元過ぎれば熱さ忘れる。あの苦しかった日々は記憶のかなたに消えつつあります。その苦しかった時期は、不思議と「いつかは治る。今日よりも明日。明日よりもあさつては良くなる」と信じられました。落ち込んだことは一度もありませんでした。これがお恵みということなののでしょうか？

マルガリタ マリア 岩田 聖代



### ★ 社会活動センターからのお願い

・野宿者、生活困窮者の毛布、寝袋が不足しています。ご家庭で眠っているものがありましたら12月15日（日）までに聖堂入口の段ボールにお入れ下さい。汚れているものはご遠慮下さい。



## 図書室より

12月アドベント（待降節）に入ったこの時期にお勧めしたい本を紹介します。

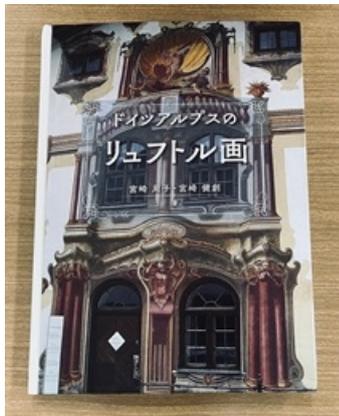
米国の新約聖書学者で教皇庁聖書委員会の委員の一人でもあったレイモンド・E・ブラウン神父の『降誕物語におけるキリスト—マタイ2章・ルカ2章に関する小論集』（女子パウロ会1996）という一般向けの小誌です。ブラウンはマタイとルカだけが語るイエスの受胎と降誕物語のできごとを、聖書の批判的研究の立場から、単純に歴史的できごとと見るのではなく、復活後のキリスト論とのつながりの中で読み解いてくれます。待降節がもつ「二重の来臨」の意味を、3人の博士たち（マタイ）や飼葉おけと羊飼いたちの物語（ルカ）のなかで解き明かしてくれます。（図書委員 中野 清）



## 本のおすすめ



### 【ドイツアルプスのリュフトル画】 宮崎 周子・宮崎健創 著



リュフトル画とは、民家や教会の壁に描かれている色彩豊かな壁画を意味します。著者の宮崎さんご夫婦が、40年ほど前にミュンヘンに滞在されていた頃、ドイツのバイエルン南部の東西450kmに及ぶアルペン街道を旅される中、立ち寄ったあちこちの民家・教会で見たこのリュフトル画の魅力に引き付けられたと言います。本書は、一つ一つの壁画の由来などをご夫婦で調べて研究され、写真で紹介しています。カトリック信者が多いバイエルン地方とあって、リュフトル画には、聖書の中に記された物語の場面がたくさん含まれていますので、信徒の方にとっては、醍醐味の1冊だと思います。

・本書は宇治市より第34回紫式部市民文化賞を受賞しています。（図書室に寄贈されました。）

A4判／127頁／オールカラー／2023年6月刊／北斗書房（紹介：井川 伸子）

## 私の好きな聖書のことば



わたしたちは、今は、鏡におぼろに映ったものを見ている。  
だがそのときには、顔と顔とを合わせて見ることになる。

コリントの信徒への手紙（一） 13章12節

「そのとき」が近くなったから選んだのではなく、高校生の頃から心惹かれていた言葉です。パウロの時代の「鏡」は金属製で、映るものは暗くぼんやりしていたそうです。そこに見るのは不鮮明な現世の私たちの顔や神の顔です。他方、「そのとき」には、つまり来世に足を踏み入れる死のときには、「顔と顔とを合わせて」はっきり出会うこととなります。私たちの顔と合わせる顔とは神あるいはイエスの顔です！ 神あるいはイエスと「顔と顔とを合わせる」ということはドキッとします。ですが、私は恐怖や畏怖ではなく、待ち焦がれた人と出会う喜びを予想するのです。そして、顔を合わせたらきっと神は抱きしめてくださるにちがいないとの信頼を感じるのです。また、この言葉は死後どこ（天国・煉獄・地獄）へ行くのかという不安からも解放してくれました。独善的楽観かもしれませんが。

「そのとき」までは、「その日の苦労は、その日だけで十分」（マタイ福音書6章34節）にし、「思い煩いは何もかも神にお任せし」（ペトロの手紙一5章7）て、生きていきたいです。

クリスティナ 森 道子

## 《 ミニチャリティーバザー大盛況に終わる！ 》



これまでの地区会主催ではなく、初めての試みの出店希望者を募ったミニチャリティーバザーは、ミニとは思えない程の大盛況でした。個人出店23件、ワークショップ4件に上りました。フードコーナーになったイグナチオホールは満員で、珍しいガンボスープ、ラザニア、中高生会の心のこもった手作りピザはすぐに売り切れてしまいました。ワークショップの「オニヤンマ君作り」、「朗読」は出店者と参加者がともに触れ合う楽しい場でもありました。英神父様の「教会案内ツアー」（写真上）は神父様が旗を持って案内され、旅行ツアーガイドのようでした。パイプオルガン体験は、伴奏をしてもらい楽しい思い出になったという方もおられました。

今回のバザーは体験型ですねという方がいました。個人出店もレイアウト、飾りつけにそれぞれが工夫を凝らされていました。今回は、初めての試みのため準備、運営面での反省点がありました。今後のバザーに生かし、みんなが楽しく参加できるバザーにしていきたいと思えます。ご協力ありがとうございました。出店者の教会への献金は能登災害支援に充てることになりました。（バザー企画グループ 井川直哉）

### ミニバザー写真寸景



オニヤンマ君作り



賑わうイグナチオホール



パイプオルガン体験

## 《 クリスマスの飾り付け 》

11月24日（日）10時のミサ終了後、クリスマスの飾り付けが行われました。今年の待降節は例年より遅く12月になってからです。でも、もうそんな時期かと思うほど月日の経つのは



作業を終えほっと一息のみなさん

早いもの。この日は少し寒かったのですが、初冬のベルタワに沿って電飾ツリーが出来上がり、聖堂にもツリー、そしてやがてイエスの誕生を迎える「馬小屋」もしつらえられました。

お力を貸して下さった方々、ご苦労様でした。この飾り付けは年を越えて来年1月11日まで教会を飾ることになります。世間でのいわゆるクリスマスが終わっても、私たちは「主の洗礼」の祝日の直前までは、イエスの誕生を称え育んで行くのです。

【2024年12月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
待降節第1主日 宣教地召命促進 の日		日本宣教の保護者 聖フランシスコ・ ザビエル司祭			初金曜日ミサ 7:00 10:00	
8	9	10	11	12	13	14
待降節第2主日 六甲教会創立 記念日	無原罪の 聖母マリア 7:00 10:30 ロザリオの 祈り 10:00			聖体礼拝 19:00	◎灘北1 北・ 三田	教会学校 クリスマス会・ 終業式 炊き出し
15	16	17	18	19	20	21
待降節第3主日					大阪シナピス 定期清掃	
22	23	24	25	26	27	28
待降節第4主日 クリスマス音楽 の集い 14:00		主の降誕夜半 のミサ 17:00 19:00 21:00 2025年の通常 聖年開始	主の降誕 日中のミサ 7:00 10:00 ミニコン サート	最初の 殉教者 聖ステファノ 聖体礼拝 19:00	聖ヨハネ使徒 福音記者 ◎灘北2 阪神	聖なる幼子 殉教者
29	30	31	1/1	2	3	4
聖家族	教会事務室 休み ～1/3	神の母 聖マリアミサ 23:00	神の母 聖マリア ミサ 7:30 10:00		初金曜日ミサ 7:00	

◎印は掃除当番地区（午前7時時点で気象警報が発表された場合は中止）

【編集後記】

- ◇チャリティーバザーが大盛会。身の丈に合った“ミニバザー”のつもりが、エネルギーの詰まった会になりました。六甲教会のパワーまだまだ全開というところです。
- ◇世界各地の戦争・紛争は終わらず、地球環境は変化し大きな災害も増えています。国々の指導者もなにやら闘争的。かけがえのない地球ということばをもう一度かみしめたいものです。
- ◇「数へ日のひと日ひと日とそばだてる」井沢正江という人の俳句です。「もういくつ寝るとお正月」の子どもたちと違って大人は大忙し。でも、主のご降誕を静かに祝い、行く年を顧みるのもまた大人の反省のひとつ。気持ちをゆったりと良いお年をお迎え下さい。（余）

ver1.2

<p>1月号の発行は1月4日（土）です。          ・原稿は毎月15日ごろまでに、教会受付へご持参いただくか、FAX、メールでお願いします。  <a href="mailto:renraku@rokko-catholic.jp">renraku@rokko-catholic.jp</a>          皆さまからのご寄稿をお待ちしています。          ・教会SNSチームは、フェイスブック、インスタグラム、X（旧ツイッター）、YouTubeチャンネルで配信しています。「六甲カトリック教会」で検索してみてください。  <b>教会の新しいイベント等をいち早くお知らせします。</b></p>	<p><b>六甲カトリック教会</b>          〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21          電話 078-851-2846          FAX 078-851-9023  <a href="http://www.rokko-catholic.jp">http://www.rokko-catholic.jp</a>          発行責任者 英 隆一郎          編 集 広 報 部</p>
---	---